

令和3年度 普通会計決算の状況

歳入

3,509億円

【歳入の内訳】

カッコ内は構成比

■一般財源	1,757億円(50.1%)
(使い道が特定されず、どのような経費にも充てられる財源)	
①都区財政調整交付金	1,042億円(29.7%)
②特別区税	517億円(14.7%)
③その他一般財源	198億円(5.6%)
■特定財源	1,753億円(49.9%)
(使い道が限定された財源)	
①国庫・都支出金	1,287億円(36.7%)
②繰入金	296億円(8.4%)
③繰越金	56億円(1.6%)
④使用料	37億円(1.1%)
⑤地方債	18億円(0.1%)
⑥その他の特定財源	74億円(2.1%)

歳出

3,380億円

【歳出の内訳】(目的別歳出)

カッコ内は構成比

1 民生費	1,847億円(54.7%)
(1) 社会福祉費	45,481(百万円)
(2) 老人福祉費	22,894(百万円)
(3) 児童福祉費	67,718(百万円)
(4) 生活保護費	48,628(百万円)
(5) 災害救助費	1(百万円)
2 総務費	277億円(8.2%)
3 教育費	636億円(18.8%)
4 土木費	233億円(6.9%)
5 衛生費	291億円(8.6%)
6 公債費	49億円(1.4%)
7 労働費・商工費	27億円(0.8%)
8 消防費	9億円(0.3%)
9 議会費	9億円(0.3%)
10 農林水産費	1億円(0.0%)

※どのような目的に支出したかを示しています。なお、人件費はそれぞれの費目に含まれます。

注) 金額等は、表示単位未満の端数調整をしていないため、加減乗除した数値が一致しない場合があります。

令和3年度 普通会計決算の状況

- ・歳入総額(3,509億円)は、前年度比△191億円、5.2%の減でした。
 - ・歳出総額(3,380億円)は、前年度比△222億円、6.2%の減でした。
 - ・形式収支(歳入から歳出を差し引いた残り)は130億円、翌年度に繰り越すべき財源(使途の決まった経費)を差し引いた実質収支は113億円でした。3年度の実質収支から2年度の実質収支を差し引いた単年度収支は28億円の黒字となりました。また、財政調整基金への積立てと取り崩しなどを加えた実質単年度収支は6億円の黒字となりました。
 - ・実質収支比率は、6.7%(前年度より1.6ポイント増加)で、適正な水準とされる5%を上回りました。これは、財政調整交付金の増や国の臨時給付金等の歳入が歳出を大きく超過した(4年度返還予定)ためです。(一般財源ベースでの標準財政規模に対する実質収支の割合。3~5%程度が望ましいとされています)
 - ・経常収支比率は77.0%(前年度より6.2ポイント減少)で、元年度以来2年ぶりに80%以内に改善しました。(経常的に支出される経費に充てられる一般財源等の額が、経常的に収入される一般財源等の額でどの程度賅われているかを示した割合。財政の弾力性を測る指標で、70~80%が適正水準とされています)
 - ・歳入の29.7%(1,042億円)を、都区財政調整交付金に依存しています。
 - ・歳出の50.4%(1,705億円)が義務的経費(人件費+扶助費+公債費)です。
 - ・生活保護費や保育園の運営費などの扶助費は、前年度比で190億円増加し、歳出全体の36.7%(1,289億円)を占めています。
 - ・区の借金にあたる特別区債の現在高は、前年度比で44億円減少し、253億円となりました。
 - ・区の預貯金にあたる基金の現在高総額は、前年度比で2億円減少し1,804億円となり、将来の財政負担に備えています。
 - ・健全化判断比率は、いずれの数値も健全性を維持しています。(財政状況の悪化による自治体の財政破綻を未然に防ぎ、適切な是正措置が取れるよう公表を義務付けられた指標です)
- ▶詳しくは、「令和3年度 普通会計決算のあらまし」をご覧ください。